

## 編集を終わって

北大定期戦を応援しての温泉談義で編集することを合意した後、編集イメージや基本構想の討議を何回か行いました。そして一昨年5月、遠刈田温泉での会議で仮目次を決定して編集作業に入りました。イメージに沿った仮目次は出来たものの、果たしてどこまでイメージに近づけたものを編集できるか、はなはだ心もとない状況からのスタートでした。

しかし青野は、艇庫の資料室に足繁く通って合宿日誌などから多くの資料を収集し、また市立図書館にも籠もって50年前の新聞記事を片っ端からコピーしてデータバンクを作りました。また佐藤は日本ボート協会の資料室から、戦後からのレガッタの公式記録を収集し、わが国のボートレベルの消長を把握しました。さらに堀内様から、ご自身で作られた膨大なスクラップブックをお借りできたことから、当時の状況をかなり細かく知ることが出来ました。

このようにして収集した資料を基に分担執筆に入りました。ある程度まとまるとメールで送信しあい、お互いの原稿に目を通しては温泉合宿で討議することを繰り返してきました。またしばしば鎌倉にお邪魔し、堀内様のご助力も頂いて何とか完成に漕ぎ着けることが出来ました。

この編集は、エイトクルーが頂点を極めるに至った状況を記述しましたが、その陰に35年エイトを支える捨石の役割を果たしたフォアクルーや、獅子奮迅の行動により合宿全体を切盛りした選監の皆さんの活動なくして栄冠はあり得ませんでした。彼らの存在と真摯な活動まで筆が及びませんでした。縁の下の役割を見事に果たしてくれました。

こうして4年間をまとめてみると初めて知ることも多く、「ザ・ビッグバン」がどのようにして始まり増幅していったかが見えてきたように思います。それにしても予備戦力を持たないワンセットの戦力で、しかも体力的に強豪他校を凌駕しているとは言えないクルーを、トップレベルにまで導いてくださった堀内様のご労苦の大きさを改めて思い知らされ、心から感謝を申し上げる次第です。

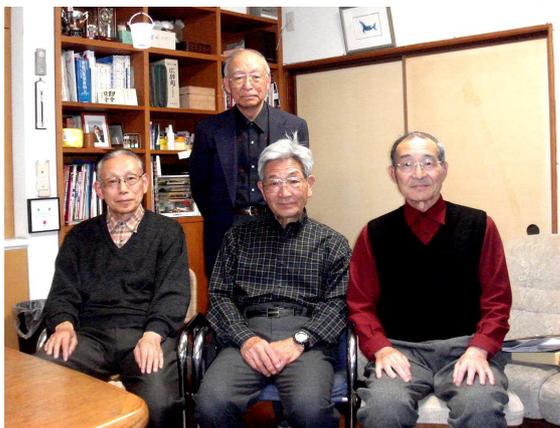
恩師 堀内浩太郎様から頂いた「思考遺産と戦績遺産」を増幅して、東北大学漕艇部がますます発展していくことを願ってやみません。ありがとうございました。

平成24年(2012)4月吉日

昭和32年度 主将 青野 洋

昭和34年度 主将 島田 恒夫

ローマ・クルー整調 佐藤 哲夫



完成予定全ページ

項目	記事頁	ページ番号	頁数	比率
表紙	1	—		
謹呈	1	(1,2)		
総目次	1	(3,4)		
はじめに	2	5～6		
捨紙	1	(7,8)	18	9.3
写真のページ	10	(9～18)		
<b>第一部目次</b>	1	(19,20)		
歴史の夜明け	2	21～22		
昭和 32 年度目次	2	(23,24)		
〃 活動	10	25～34		
昭和 33 年度目次	2	(35,36)		
〃 活動	12	37～48		
昭和 34 年度目次	2	(49,50)		
〃 活動	20	51～70		
昭和 35 年度目	2	(71,72)		
〃 活動	36	73～108	90	46.4
<b>第二部目次</b>	1	(109,110)		
われらの指導者	4	111～114		
新しい伝統を築け	3	115～117		
勝利への原動力	4	118～121		
最後の頼みは精神力	2	122～123		
艇速に効果あり！	4	124～127		
「超ロングレンジ漕法」の発展可能性	4	128～131	24	12.4
サトウハチローの詩	1	132		
<b>玉章目次（裏面に 80 年の目次）</b>	1	(133・134)		
ボート回想 80 年	20	135～154		
キャッチの理論の目次	1	(155,156)	32	16.5
ブレードが引っ掛かる位置で艇速は決まる	8	157～164		
<b>第三部目次</b>	1	(165,166)		
ローマクルー急成長の要因分析	9	167～175		
大学クルーのスピード調査	1	176		
北大 初優勝成る	1	177		
大学とスポーツ	1	178		
チームワークとメンバーシップ	5	179～183		
クラマー・コーチと大和魂	1	184		
オリンピックタイムとわが国の力	1	185		
全日本選手権・大学選手権大会の記録	8	186～193		
写真—光のレース	1	194		
<b>編集を終わって</b>	1	195	30	15.4
			195	100